

第1期上下水道事業経営委員会（第2回）の主な質疑

【HP版】

平成27年2月27日（金）14時00分～15時40分
上下水道局3階301会議室

質 疑		答 弁	
【1 平成27年度予算（案）概要】			
A 委員	下水道事業会計の収益的収入のうち、一般会計からの繰入金はいくらか。	上下水道局	収益的収入における一般会計からの繰入金は、約16億円である。
A 委員	下水道事業においては、雨水処理事業には税金が投入され、汚水処理事業については料金収入でまかなっているということではよいか。	上下水道局	下水道事業については、そのとおりである。
A 委員	管路整備事業等について、材料費や人件費の高騰で予算の執行ができないという問題は発生していないか。	上下水道局	計画的に整備事業を進めている中、労務費等の高騰による変更設計はあるが、予算の範囲内での執行となっており、事業推進にあたって影響が出ることはない。
B 委員	平成26年度に上下水道事業が統合したが、統合によって職員数・人件費はどのように変化したか。	上下水道局	職員数については、99名から94名に5名減員とし、再任用職員を2名採用した。人件費は約4,000万円の抑制が図られた。 その他に統合の成果としては、上下水道の窓口一本化による対応の迅速化など市民サービス向上、豪雨災害時の危機管理体制の対応強化、水道整備・下水道整備の工事連携による費用縮減・工期短縮等があげられる。
B 委員	通信機能付きスマートメーターの導入などは考えているか。	上下水道局	現在のところ、スマートメーターの導入は考えていない。
C 委員	散居村部での検針業務にはかなりの労力が必要だと思うが、スマートメーターの導入を考えてはどうか。	上下水道局	スマートメーターなどの導入には多額のコストがかかるため、全国的に普及は進んでいない。今後、他事業体の状況を注視していきたい。
B 委員	メーター検針業務は、どのようにおこなっているのか。	上下水道局	検針業務は民間委託しており、約30名の検針員が隔月検針を行っている。
B 委員	営業業務における民間委託は検討しているか。	上下水道局	営業業務のうち、検針から料金徴収までの業務については、平成24年度から包括的に民間委託しており、市民サービスの向上と経費の縮減につながっている。

質 疑		答 弁	
D 委員	人口減少や水需要等について予測をしていると思うが、予測に対して実際はどのように推移しているか。	上下水道局	水需要については、予測を下回って推移している。人口の減少以上に大企業の専用水道の導入が大きく影響している。平成 29 年度からの新上下水道ビジョンでは新たな水需要予測のなか、事業計画を策定していきたい。
【 2 住吉ポンプ場雨水施設新築工事について】			
E 委員	博労地区は、もともと合流式下水道の地区だったようだが、新たに雨水幹線を整備するということか。	上下水道局	新たな雨水管は整備せず、既設の合流管を利用し、住吉ポンプ場の排水能力を現在の約 2 倍にする工事である。
E 委員	合流管から汚水が川に流れ出てしまうという問題は改善されているのか。	上下水道局	それぞれの配水区に堰があり、堰を乗り越えた雨水だけが千保川へ放流され、極力汚水が流れ出さない仕組みとなっている。
E 委員	このポンプを設置することによって、どれくらいの降雨に対応できるか。	上下水道局	時間雨量 40 ミリの降雨に対応できる。 この雨量を超えると、ただちに水が溢れるわけではない。その他上流区域の雨水を早期に川に排水するなど対策をすすめ、浸水被害を防ぐ。
E 委員	このような浸水対策工事を行っても、完璧な対策ではなく、今後も災害に備えることが重要ということを市民の方に広報する必要があるのではないか。	上下水道局	市民の災害に備える意識を高めるため、内水ハザードマップを作製し配布している。その中で、市民の方にもできることとして、側溝の排水能力を保つため、雨が降りそうな前には、側溝にゴミが溜まっていないか等の点検と清掃の協力をお願いしている。 市民の方にご協力いただき、防災意識を高めながら、市と市民が一体となって浸水対策を進めていく必要があると考えている。
B 委員	現在使っている古いポンプ施設は汚水と雨水を処理するものが併設されているということだが、新しい施設ができるとどちらも不用になるということか。	上下水道局	雨水のポンプ施設は、新しいポンプ施設を整備した後廃止するが、汚水のポンプ施設については今後も使用する。

質 疑		答 弁	
B 委員	富山市では雨水対策として町中に地下貯留槽を作っているそうだが、そういったものと、ポンプで川に流すというやり方のものとは、技術的に違うものなのか。	上下 水道局	地理的な要因が大きく、広くてまっすぐな道が多い富山市に比べ、狭く曲がりくねった道が多い高岡市では、地下に大きな貯留槽を作ることが難しく、多大な費用が必要となるため、現在の方法で整備を進めている。
B 委員	ポンプ場の建設予定地はどうしたのか。	上下 水道局	ポンプ場の隣にあった土地を購入した。
D 委員	市民からすると、このような事業を行うと多大な費用がかかるので、下水道の料金が上がるのではないかと思われる方もいると考える。そういった懸念を持つ市民に対して、市民の協力をきちんと得るため、行政としてどのような対応を行うべきか。	上下 水道局	下水道事業に関しては、基本的に、污水処理事業については市民の皆様からの下水道使用料をもって運営し、雨水処理事業については市の一般会計や国の補助金等の公費が負担するという仕組みとなっている。雨水対策工事にかかる費用は下水道料金で負担してもらうものではないことを、積極的に市民に伝え、理解を得ていきたい。
A 委員	ポンプの耐用年数は 15 年程度と考えてよろしいか。	上下 水道局	現在のポンプは耐用年数を超えているが、日々の点検や小規模な修繕、部品交換などを繰り返しながら使用している。